

13
2818
3

△
山津伊

洞子の子弄ふ二上りと弄れハ三下	意正るも切なるも切ひる程ハ本	原乃立中解ふのも甚難くも	こ我三弦の連弾よも〜〜〜	二筋道も三ッ右と六ッ初とちを	二筋道三篇骨の程序
-----------------	----------------	--------------	--------------	----------------	-----------

山津伊

楽藤
文庫

山津伊
齋藤
五

とまろさき 階子に 後らのまんとく
 後古近江の名残のつとも 御歌の
 遙蕩した合せりのも 龍くと 稚洞の
 常然るもの 幸もも 終まは 枯の寂寥
 柏子かたで 皆言家子 手折り
 流り又白く 眼の前より 涙ふあて

三ノ

見のひと 息勢くろく 草紙亭
 教く 碧ひ 錦の 妄言書紙
 妻の 名 彦

作者
 梅暮里古峽



六



七



こぼれがらあしあきさしてさう成るべ
風せしき夕ぐせの折端をば成風のさ
さ人の物らく病よからやれぬんが妻乃
ちせあくはさ死する看病の雪よつけ
雨よつけおひひるすへふひの洞先どう
言葉の邪なるがら

文重ぶんじゆうこれくも時ときアそのさふ深切やくさ重なるほど
余よ込こくくくれれききららぶぶららけけれれぬぬひひまませせば

ニブス
に

かろとわど口が身をつまのおそはしやくさう二人の
さうら妻くの人ひとのうたうたらうらう寂さびららゆゆささをを悟さとひひぢ
とおひめさうその野ので今いまけけががぬぬそれそれととつつのの言ことア
一ト重い回まわりりはは雅みやび面おもてををめめののらら結むすぶぶととかかららもも男おとこ乃
主しゅ死しががつつつつままささうう深ふかくくららううははりりままぬぬををめめささひ
いいちちままががるるののうう病やまつつきき一ひと日ひれれををめめささせせば
けけややるる別わかれれもも今いま更さらるるんんととああららぬぬととののううららの
憂うれねね難がたよよつつひひとともも相あゆゆつつききををててひひととかかららぬ

深き志ありければぬ^{てん} 濁り^{てん} ぎそれゆゑ人なれ
 ぬと人バあつくと面目^{めん} ありこの生面^{なま} をあ
 せうより病^{やま} がめらなり死^し で志^し せんが
 子^こ 依^よ 承^{じやう} 又^{また} うむせもあらうと只^{ただ} それの
 形^{かた} 小^こ ぞイケテ馬^ま 麻^ま よあうとこら
 子^こ 妻^{つま} の子^こ のあがら何^{なに} らも皆^{みな} 承^{じやう} せうら
 のやうぐのけ悪^{あく} 縁^{えん} ありあはしくかん
 志^し してらる

三六五

とぞら涙^{なみだ} じりればおほの
 斥^{しやく} 言^{ごん} なるがら

妻^{つま} 時^{とき} 十^{じゆ} ぞのやういふとあつて
 夫^{とと} のよああらねかんらん女^{によ} 房^{ぼう} の役^{やく} それが
 除^{のぞ} けうらふそりや又^{また} おまの隔^{へだ} のむ下^{した} さま
 しの深^{ふか} ひ中^{ちゆう} 吟^{ぎん} 昔^{むかし} げう人^{ひと} とも怪^{あや} しみ
 初^{はつ} の中^{ちゆう} もえうまんまをわうむるもあ
 大切^{たいせつ} さひろとサ^さ 別^{べつ} でのあらうと根^ね うはら

あやふらつな夜毎もからと寝がづきんせもろひ
鉄でまふまふふあふはしく新命後へまづつた
のぞたこむのもつらうらうらよまひるのぼて口先で
笑ふおたはしし寐ねまひるまゝ又声のうらむ
のともまむせぬむのせうあまよ聖日あま
けつとま何から先入りさんとも恨むま
あまか新とえてふみまおはしくむじよかうら
かむぐいとま入が格免ゆま入やうらうら
ハハハ

嬉々あまゆひとらよらと正りやと
それをたのしみ二人の子を守りて女の女一ッ
若者のおまうトきさん一日のどのおひもせむ
生死ままぬとつらまかむとらまよ居て俱
あまふあまをたふよするあまがらんがうらうら
らふふあまむじのゆあまがまあうのまも有ら
あまふえんあま絶ねまこれとひと死入るけれ
バかまらするたふらもあまあま悪徳とらう

とまをむらうけやまよふてありまはよつとじがまを
くみ経ひ浮ぬをうくうは陽てらるがまや
まよひ目ゆく瘦おころの塞もあさる病根ハ
下まをえのころれうとそやひもともまを
あれど世よあるとたえせぬアんなのあんが女子
の情もでも今中ぞてんハのうませぬものやま
憂殺ぐもせめてハをまよら斗も気のたま
ハ准もくろくハあるまのよるせううくとららあり

三へん 七

素とんじまの苦勞をもりつまよふてもまの
やせぬ

ト実あくのまてなげくあぞ

文里 何くもあふまでのころかころの死その底今さら
貞実なることえん死ぶ生く志且もせぬ隔
ころ田舎の下重がとるあよあ入てが入りの必に
あよ素まづくあつてなせぬよ 三 素まづく
あふらひるが初めうらけらたハんやまよせぬが

已^よに^くが^め慾^よ同^めら^め志^め孫^めも^めの^めふ^めひ^めと^めら^めぬ^めめ^めな^めく
 仲^な間^ま中^{ちゆう}も^もと^とら^らし^しく^く智^ち惠^ゑ才^{さい}学^{がく}ん^んを^をど^どこ^こ
 その^そお^おま^まも^も今^{いま}そ^その^のや^やな^なに^にあ^ある^るて^てハ^ハ悪^{あく}瘡^{そう}よ
 此^この^のむ^むと^とを^をま^まさ^さる^るは^はさ^さら^らく^くむ^むら^らと^とあ^あの^のり^りを^をま^ま
 さ^さら^らと^とあ^あり^りま^まは^は分^{ぶん}ち^ち年^{ねん}ふ^ふま^まし^して^て西^{せい}人^{にん}に^にま^まよ^よふ^ふ
 耳^{みみ}疾^{しやく}ま^まら^らせ^せお^おひ^ひら^らが^がま^まで^でし^しの^の中^{ちゆう}孝^{こう}子^こと^と女^{にょ}子^こと^と
 ら^らよ^よ出^でる^るも^もお^おま^まよ^よあ^あの^のま^まで^で堪^{かん}忍^{にん}と^とさ^さら^らく^くと
 して^{して}ト^トエ^エり^りや^や

三六八

文^{ぶん}里^りハ^ハ言^{げん}句^くの^のひ^ひま^まけ^けも^も涙^{なみだ}よ^よめ^めの^のさ^さら
 せぬ^{せぬ}の^のま^まう^うと^と同^{どう}よ^よめ^めて^て疾^{しやく}吉^{きち}ハ^ハあ^あら^らの
 う^う不^ふせ^せの^のぞ^ぞれ^れこ^この^の疾^{しやく}ま^まら^らせ^せし^して^て

文^{ぶん} 疾^{しやく}や^やう^うく^くあ^あら^らし^しの^のト^トい^いひ^ひま^まけ^けナ^ナゼ^ゼそ^その^のや^やら^らよ
 せ^せま^まん^んか^かま^まん^ん泣^なく^くあ^あら^らし^しの^の場^{ばう}が^があ^あら^らく^くハ^ハか^かん^んあ^あん^んと^と是^{これ}
 う^うら^らハ^ハお^おと^とる^るく^くは^はあ^あら^らせ^せよ^よモ^モウ^ウあ^あら^らせ^せト^トさ^さる^るナ
 ト^ト子^こど^ども^もあ^あら^らの^の何^{なに}も^もの^のう^うと^とあ^あら^らせ^せる^る望^{ぼう}
 の^のあ^あら^らせ^せる^る文^{ぶん}里^りふ^ふら^らぬ^ぬも^もあ^あら^らせ^せる^る

しるるのたうなみく

文何^{なま}決^とのこ^りい^いて^いら^げん^もの^りの^りと^りい^いて^い
し^らひ^して^いま^なあ^まが^らい^りら^んせ^らる^い切^ぎら^ま
ま^であ^んど^とせ^らる^いら^んと^いあ^も持^もか^らぬ
その^お親^ちよ^とせ^その^まま^に孝^{こう}ら^の子^こや^いい^のお^も
な^ま貞^{てい}実^{じつ}の^りの^りあ^まと^のあ^まつ^らあ^れせ^らま
し^らぬ^とあ^まい^いて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い
し^らぬ^とあ^まい^いて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い

ト^との^り乱^{らん}る^る男^{おとこ}泣^{なみ}き^て死^しと^りの^り子^ここ^ら

あ^まの^りあ^まい^いて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い

文^{ぶん}堪^{かん}忍^{にん}や^く死^しの^りせ^ぬく^くあ^まい^いて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い

モ^もウ^うの^りあ^まい^いて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い

この^りや^あ妻^{さい}サ^さる^るこ^らい^いと^りあ^まい^いて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い

と^りあ^まい^いて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い

勝^かつ^つて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い

あ^まの^りあ^まい^いて^いら^んが^らう^らが^あの^りよ^もあ^まい^いて^い

二まするがけちやハ子とるのぬやらのうらうとせし
 も^{涙の}こゝろをひとうのまな迷ひ^た碓^あのらへし^らこも
 坊とらうらうらうのしちのちをまゐのまじりのよ
 よく無であるの文^アよの物^あ学んぞッリヤ^は竹村の
 宛中^あの月^つといふ菓子^こび碓^あさんめつちのち
 さんの知^しく^せは^はく^りた^るぬ坊^もらうら
 小^い往^いら^のう^う ^アス^とと^と ^あ ^こ ^ら ^い ^ら ^ぬ ^坊 ^も ^ら ^う ^う
 トセがまゐる程みるるまじらうとのうら
 三ぶん 十

文^アノ坊^がをか^こい^がら^さ ^あ ^を ^さ ^ん ^の ^田 ^舎 ^へ ^い ^ら ^つ ^て ^死 ^す
 生^くら^う 便^り ^が ^る ^い ^が ^も ^し ^て ^あ ^の ^大 ^病 ^で ^全 ^快 ^ト ^ハ
 ぞらぬ^ま ^今 ^頃 ^ハ ^土 ^の ^下 ^へ ^た ^ら ^う ^ト ^デ ^あ ^ら ^う ^ヨ ^碓 ^ナ ^ゼ
 文^アい^く ^が ^つ ^ら ^う ^ト ^死 ^で ^ま ^じ ^ら ^う ^ト ^碓
 ア^ノ 死^と ^碓 死^と ^の ^せ ^ら ^る ^い ^ら ^う ^ト ^ゆ ^め ^の ^で ^坊 ^も
 ろう^の ^い ^ま ^ぬ ^サ ^碓 ^あ ^ら ^う ^ま ^の ^文 ^ヲ ^け ^や
 小^の ^碓 ^ノ ^碓 ^ヲ ^か ^や ^ア ^ト ^ト ^ま ^じ ^ら ^う ^ト ^碓
 文

おそろやく

トロぞりしどむぞの同音信のその人
さふりやト重が便りうとあへる胸
のおどろく妻のおと死のる母さふ
むつひの病のあつらうくふくは
のぐさめてもえらぬのええの
癖とまりのるら

妻モシへつらうがツの影があるがえいといふはつた

久^ク文^ブト重^{トシゲ}がえらぬまづらうのらモウめんよ
おひさうとる妻そのひんこのるるれど
おひさうとるめらうとるまもこしうがえが
さまぬの子もも田舎へちてよりよと
りつらうとるまうらぞキツトの便りもある
みめのことどもあへらる定めく病人乃
お前ゆえ面倒でもあらゆるまど床
むらうついでゆるく只免むづらうら

ぶら病ヤマイるれづ一すらりと廊クラドへりてやまを
 さいてあんどはせとく下くだらりす一文何ナニをいみ
 うとやびぐらう今いまあめひまういさのころい
 からたろくしそを便べんのるいあうがやうも
 であらふよ妻つまをれづらうの現げんにけていしうが
 お移うつぐひ文それごとくしうく妻つまをいれ不ふどあ
 ねびりいさしてゆいそうなみのいづかしま
 さい文やうおそくゆるいさい何なんのうらうのみまで

ねけめらたごまうト重おもなるんあまうのあひ
 おぢふとむらがある妻つまごまこといふもあまうが
 大切たいせつ文ぶんをまゐりどまふこの馬ま廉れんをまゐり
 いふもまゐり思おも縁えん妻つまがひ合あひりど惚おぼれあ
 えん文モフひめてらるん文疾はやくさるん文イヤ
 ち雪ゆきがふらそまゐりまゐりいづのあつを
 つけやま妻つまハイ
 火ひをうらつける音ねうらう

序開者

先夏冬の床の初爰ふ

春午の杵杵

後編ハ去未の世

歳毎栄

二筋道賞の程

三編ハけ申の世

紀伊國や文里

其意中ハ

三浦や一トえ

異見の文々

めトて書や不々々 智我由る古

七情ハ人ハ情リしるくも死物ノ世ごとク終を

情ハ奪入メてくひんを然ル義理ハ之モ深ム

互ハの仇タラハル物ヌメのゆく終ハ身を

不ろ得タラシク眼前ハ身ハ之らのゆくハあつら

ゆやう終ト見え居る悪ノ二筋道ハ右と左カ

ころハんて居る淋ハ悪娘ハゆるハハ入

やど死人タラハゆメハけ知ラシクハ勤年ある

べつとめ居るの空のあやうきとらね

世の中の義理の社辱も了らぬまのあつ
やど狗のうしよ妻のよめを幸ひ小
病の足の道たるもゆのちり死枯子
たれそれとんるよりロクよよびを教
せん合せばよ一よのそひやり月ふ
らう泪夕ぐららのまがーをたもあつ
しがやあつて

花の香

文里えんようちのぞろん〜ねア何うか

おたろの〜の〜のせうりあめふうける人もあつ〜の
まが今仲の町〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の
文おまのあづ〜の茶屋のまも気の毒なり
お〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の
まよでも文里さんがやうよ紙をよひようとして
出るん〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の
家よ〜の〜の〜の〜の〜の酒でもあびてくれ
といひつけおたろん〜の〜の〜の〜の〜の

のぐりるんゝな^文そんからあぐらでもより
ろろろの^{尼世の女郎}サアくおあぐらるんゝ^文えん
るもえあぐらるん^{女郎大勢}のちるどく

トこづいの上ととづとめろともおの
まんおのけ二ろのあぐらえよう^{おの}のむ
同る^{えり}文里か正るれが^{おの}ちらあけ
つけても^{かせ}瘦おとろろそのととづいよ
づる^{おの}む^{おの}ふと^{おの}まく^{おの}えん^{おの}も

三べん 十七

めんふるあゝおおひろい^{おの}のれ
りもも^{おの}せぬ^{おの}と^{おの}着^{おの}の^{おの}を^{おの}ら
中^{おの}に^{おの}も^{おの}を^{おの}片^{おの}付^{おの}んと^{おの}る^{おの}お^{おの}い
てる^{おの}棧^{おの}物の^{おの}着^{おの}者^{おの}や^{おの}づ^{おの}の^{おの}ら^{おの}ど^{おの}あ^{おの}い^{おの}で
の^{おの}さ^{おの}れ^{おの}や^{おの}と^{おの}その^{おの}間^{おの}よ^{おの}ひ^{おの}を^{おの}や^{おの}床^{おの}を^{おの}あ
屏^{おの}風^{おの}う^{おの}ひ^{おの}ふ^{おの}ら^{おの}い^{おの}せ^{おの}ぎ^{おの}て^{おの}い^{おの}お^{おの}あ^{おの}て

サラへてへ

床のどん

つめろん〜とあぢな舞まふでもあつらへん〜と
つめろいせんよ

ト舞ま〜のこももあひあひのさし
あつらへるのあぢなはさうから今こあぢあぢの
彩いろ造ぞう八や守しゅ梅ばいはなよりさくさく舞ま〜しか
障さや子のこももあひあひの袖そでを
あつらへるのびるあぢなそのあぢあぢの
めあぢな〜とせ

三三
三三

花はなそこふめるのへ八や守しゅ梅ばいさんで八や守しゅの
アイアイ花はなサア〜あつらへるはなアア〜花はな
この子のあぢな〜あぢなはさうから今こあぢあぢの
あぢ〜なトトあぢあぢのあぢ〜なアア〜花はな
文ぶん里りさんでさうあぢあぢのあぢ〜なアア〜花はな
八はち重じゆうそれ〜さうあぢあぢのあぢ〜なアア〜花はな
い〜さうあぢあぢのあぢ〜なアア〜花はな
てあぢ〜なアア〜花はなこの子のあぢ〜なアア〜花はな

の花はなけ子けこのよまつけそらうくろあひをば
のめらゆでおまアおもたうわらふさう
なな文ぶんぞうりト字ふ何なてめるやうぶの花ア
あいらんの妹あいらんでおま

トまこと文ぶんふらびころあひひるから

文ぶんアめらゆらうけうがうせんがらぬめらも
下重しもむの田舎いんやのいんまのしがお足あし見みゆり
死しええとらうけがサ花アイササちええ

三づん 廿一

やうさゆめらうのいんまの病びやう糸いとの中
由よし那なえんもおまえんも殊ことさらたうが
あひめらうらうのいんまのいんまの
あひめらうのいんまのいんまのいんまの
田舎いんやの人ひとがらうあひめらうのいんまの
とらひるいんまのいんまのいんまのいんまの
があひめらうのいんまのいんまのいんまの

ひるんーら見^え那^みえんがトえとらて
フーがぶの一ちむえのびらぐ^さのびらぐ
大^は病^{びやう}ぐとまらゆととひるんーらそや
アかるとさるなとびせんてん^アおきおる
おひるののびやアびらるやせんく
その子^こもさるめんが上^う縁^{えん}道^{どう}中の曾^そ我^が野^の左^ざ
のめら親^{おや}さる^さらととととが村^{むら}のから
とまのんまなく西^{さい}親^{おや}がうらうとて

の子のゆきむいふにぼがてらめ
たのわーぬむたぬ^の同^{どう}一年^{いちねん}の親^{おや}
死^しんそれらあの子^ことととと^お又^{また}乃^の
ゆみかると直^{ちか}よあめん^のあ^らら
そむい親^{おや}むらの死^{しん}むの^のあ^らが
らとととと^の隔^{へか}る^る團^{だん}の^のあ^らら
親^{おや}さる^さるやアまらや^の
らんとととととととととと

とせやる **等** アイレく 國邦 へんの おろめ ^たけで ^はま
あけくろなるん 一 ちもよもしや ^あまの ^あめく
し ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
し ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
あ ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
み ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
り ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
で ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま

三ツ入 廿五

ほ ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
あ ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
支 ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
の ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
と ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
ま ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
ま ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま
ま ^あめ ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま ^あの ^あま

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the right page of an open book. It begins with a large initial character, possibly 'S' or 'S', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting. There are some small annotations or corrections in the margins.

三二二
十

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the left page of an open book. It begins with a large initial character, possibly 'S' or 'S', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting. There are some small annotations or corrections in the margins.

がんとまゝのゝうらふにをるるをたぬものて
うらふをいふやうにたぬものておとよハチ
三 ホシ
のひとらひのうらふをいふにゆめをか
うらふをいふにゆめをか
とらひのうらふをいふにゆめをか
まゝのゝうらふをいふにゆめをか
まゝのゝうらふをいふにゆめをか
まゝのゝうらふをいふにゆめをか
まゝのゝうらふをいふにゆめをか

三
五

このふのぞかまゝの人えんがめそれよ海を
の中をいふとまゝのふのうらふの中をいふの
結むすむすらふにまかすもたふゆめいせうよ
るま中神かみかみ仏の名ひもいふらうらふをいふ
まゝのゝうらふをいふにゆめをか
おれが身おまのうらふをいふにゆめをか
とらひのうらふをいふにゆめをか
うらふのうらふをいふにゆめをか

ト注^{あは}す^しく^るハ^きを^れづ^るの^志を^けぐ
と

文^ア、モウ^るも^もの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
格^向の^りに^まを^下に^すは^るの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
る^りの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^死の^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^えづ^くの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^ある^りの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形

三ノノ二ノ四

か^いせ^いが^らん^ちの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
る^りの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^ある^りの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^えづ^くの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^ある^りの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^えづ^くの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^ある^りの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^えづ^くの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^ある^りの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形
と^えづ^くの^りま^のし^やあ^らひ^のあ^らじ^いの^形

とくひのせんはあやま悟あやまるが男おとこのさふそふこころのせん
 りとてあまがこころいよひつていぢめくさるるれよ
 よう外のよふのひせんあつちと後あつちをうてひるんせが
 文ワリキア あまは惚わかれを後悔こころあやまより あつち後あつちより
 志こころのあまのむねびよふいぢめくさるる
 あけいもいぢめくさるる あつち文あつちそんめら
 是こころくさるるあまのいぢめくさるる あつち文あつちあまのいぢめく
 ともいぢめく あつち文あつちウヌがぢめくさるるいぢめく あつちあまのいぢめく

三十一 三十一

王も免あつちがつて人の異あつち見あつちぞのあま あつち文あつち人のいぢめ
 りとてあまがこころいぢめくさるる あつち惚あつちるあまのいぢめく
 のあまのいぢめく あつち文あつちいぢめくさるるいぢめく
 とあまのいぢめく あつちあまのいぢめく あつちあまのいぢめく
 があまのいぢめく あつちあまのいぢめく あつちあまのいぢめく
 あまのいぢめく あつちあまのいぢめく あつちあまのいぢめく
 夜あつちのあまのいぢめく あつちあまのいぢめく あつちあまのいぢめく
 のあまのいぢめく あつちあまのいぢめく あつちあまのいぢめく

三つとつち中あへく別^{わか}とちの^ち花^{はな}あめくまのちう
 りん^{りん}の^の路^ぢ入^い寒^{かむ}で^でそ^そう^うち^ちれ^れる^るん^んに^にて^てま^ま
 ち^ちの^のあ^ある^るう^うち^ちが^がい^いま^まを^をた^たま^まく^く中^{ちゆう}宿^{しゆく}人^{にん}を
 り^りん^んひ^ひぞ^ぞり^りま^ま 文あ^あち^ちの^のい^いま^まの^のあ^あが^がら^らま
 あ^ある^るま^まを^をた^たま^まは^はい^いなる^るま^まが^があ^あの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ち
 せ^せあ^あの^のと^とせ^せま^まと^とは^はい^いま^まの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ち
 ぶ^ぶろ^ろ下^げえ^えが^が身^みあ^あの^の行^{ぎやう}文^{ぶん}ま^まの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ち
 ト^トと^とい^いま^まの^のあ^あが^がら^らま^ま

三つとつち

三つとつち中あへく別^{わか}とちの^ち花^{はな}あめくまのちう
 りん^{りん}の^の路^ぢ入^い寒^{かむ}で^でそ^そう^うち^ちれ^れる^るん^んに^にて^てま^ま
 ち^ちの^のあ^ある^るう^うち^ちが^がい^いま^まを^をた^たま^まく^く中^{ちゆう}宿^{しゆく}人^{にん}を
 り^りん^んひ^ひぞ^ぞり^りま^ま 文あ^あち^ちの^のい^いま^まの^のあ^あが^がら^らま^ま
 あ^ある^るま^まを^をた^たま^まは^はい^いなる^るま^まが^があ^あの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ち
 せ^せあ^あの^のと^とせ^せま^まと^とは^はい^いま^まの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ち
 ぶ^ぶろ^ろ下^げえ^えが^が身^みあ^あの^の行^{ぎやう}文^{ぶん}ま^まの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ちう^うま^まら^らの^のち^ち
 ト^トと^とい^いま^まの^のあ^あが^がら^らま^ま

おもたうんせよひとちんぶをざ〜あしん
 上とつたるゐるが身よりかせるゝのんばれ
 なるもあつてはあつてはあつてはあつては
 うらやまひらうゐるゝのんばれあつては
 のんばれがはあつてはあつてはあつては
 なるゝのんばれはあつてはあつてはあつては
 上階よさゆきとあつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては

あつてはあつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては
 文 下とあつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては
 文 下とあつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては
 文 下とあつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては
 文 下とあつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては

これのよきしつらなるに日始のさくらを
みぎのしとさつちをいへばうらな
るへんともいへばさかきくさる
りぞふしとさつちのさつちをいへば
さつちのさつちをいへばさつちの
さつちのさつちをいへばさつちの
さつちのさつちをいへばさつちの
さつちのさつちをいへばさつちの
さつちのさつちをいへばさつちの
さつちのさつちをいへばさつちの

るにふあはせんハナ花ヲヤあさん
トあつらふそれとていふに
あへあがて
「下え」テモけ子にさつちをいへばさつちの
うられさつちのさつちをいへばさつちの
のさつちのさつちをいへばさつちの
あへあがてさつちのさつちをいへば
おさつちのさつちをいへばさつちの

三二ハ

あまのあまのしやせう

あまのあまのしやせう

あまのあまのしやせう

○才三 秋のふん

あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう

三ノ二

あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう

あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう
あまのあまのしやせう

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, continuing the passage from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, continuing the passage from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper.

ていも。文子とらぬの今の身の上も。ふあつるま。た
 くらと人の噂も。だえ病氣でござらう。中だも
 一、温和は育と。お人志のぶの業の歩むま。一
 厄女身の上も。れが。ぞ。せ。らん。そ。らん。は。ひ。あ。わ。た
 机足の印肉養の。ま。み。ひ。つ。で。さ。う。ら。ま。人。雇。と
 じ。ひ。の。ま。の。使。置。の。そ。の。時。病。氣。の。あ。ら。う。と。し
 つ。の。ま。の。ま。だ。め。て。田。舎。の。工。も。あ。ま。る。由。由。く
 ぬ。ら。う。と。う。と。遠。く。あ。ま。る。何。あ。つ。い。ひ。し。と。し。せ。し。

三ノ入 四ノ五

せしと。ぬ。し。よ。ま。ま。も。あ。ま。る。ま。ま。合。せ。し。し。く。い。し。
 の。ま。ん。せ。ら。う。ぬ。の。病。氣。が。う。へ。る。ぬ。の。じ。ひ。
 け。も。あ。ま。る。い。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。
 け。も。あ。ま。る。い。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。
 り。あ。ま。る。ぬ。ら。う。と。世。の。人。だ。も。あ。ま。る。の。が。知。ら。
 け。も。あ。ま。る。の。縁。と。あ。ま。る。め。く。文。子。と。ま。ま。の。ま。ま。
 り。あ。ま。る。い。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。

しまあつしきでしよのあら命いのちがうつ。又外あそふ沼ぬま印いんを
かたしやあるぬえとある。☞お射のてさんさんのことあるば
よるがんの中なかにけりかたはてしなむかひをたがひど
痛いた飲いんづきのよる。モウくらりそかんまんをな。☞母はは
此こゝも。ひとひとくまひのむらびに身をまゐるぬせらん
づめちぬしやせびくかひを移うつげぬとてひひく
由ゆ次しくもんの親おやかんとしりてあつがまひあつて
るありるむいすのびりひいもか接つくも。昨きのう自みづかりのを中ちゆう立り

びきくしもあるアよめる正せい業ぎやうあるく。十が十一
おでもあいの命いのちをアあ廣ひろの江戸江戸でえ持ものりりきる
難なん病びやうどんぐまづゆくまよひつる。コリヤ雅よか陰かげ
レ。おまがしんかすおレヤツヤ。それよ娘むすめ子のことを
とびくもしつてもぬらんきうと今いまよのひにらんが
るひよ〜しよらん〜えらん〜あひちん四十ちゅうじゅう懸かのたれ
ともともあ年代ときのたれぬきまはく〜たし〜あぬいひんた〜あど
好このみ酒さけおし〜。た〜らぬおののふ。おののふ。

かゝるふがしめ。コウくちく、某^ま某^まとんせらる。おこおれが
活^い〜娘^{むすめ}なれば。おまごが命^{いのち}もあつて。彼^{かれ}は、
るひをづらや。それともさうもむけがらけりや
あつて。うのい。きやうどの某^ま代^{しろ}。ズツ肩^{かた}て二十歳。
りま情^{なさけ}さらふ。それの出来^{でき}のつがト。あつてもあつた
悪^{あく}〜も。あつてもあつて。考^{かんが}つて。なれば。非
仏^{ぶつ}のは陰^{かげ}ものらふか。ツハ痛^{いた}飲^{いん}さまよの。ア、あつて
〜と。あつて。その命^{いのち}。又ニツあつた江戸と。遠^{とほ}ひるふ

このあつて。うのい。きやうどの某^ま代^{しろ}。ズツ肩^{かた}て二十歳。
りま情^{なさけ}さらふ。それの出来^{でき}のつがト。あつてもあつた
悪^{あく}〜も。あつてもあつて。考^{かんが}つて。なれば。非
仏^{ぶつ}のは陰^{かげ}ものらふか。ツハ痛^{いた}飲^{いん}さまよの。ア、あつて
〜と。あつて。その命^{いのち}。又ニツあつた江戸と。遠^{とほ}ひるふ

Handwritten text in a cursive script, likely a medical or historical record. The text is written in a single column and includes several lines of characters. There are some small square boxes or markers interspersed within the text.

三十三
五十一

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. It is organized into several lines within a rectangular border. The script is dense and appears to be a continuation of the text on the opposite page.

三十三

若くしてたるの世用つごうはまじりなてまがらひは家の
 うち年ねんが災わざ禍わざのめめまよふもあられ
 文里ぶんりがかんどうくわう。妻つまも子どもも親おやとも。憂うれ
 由よしひくるあそび梅うめ梅うめ

親おや文ぶんをまごの不孝ふこうのりひてかゝぬとされゆや
 八十八よねとつらや年ねんよるれど。まごのその海うみ
 さらや孫まご等らが正ただ賀がの親おやひとまひひは。

由よしひくるあそび梅うめ梅うめ
 親おや文ぶんをまごの不孝ふこうのりひてかゝぬとされゆや
 八十八よねとつらや年ねんよるれど。まごのその海うみ
 さらや孫まご等らが正ただ賀がの親おやひとまひひは。

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, located in the upper right section of the page.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border, occupying the middle section of the page.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border, occupying the middle section of the page.

Small handwritten mark or symbol.

Small handwritten mark or symbol.

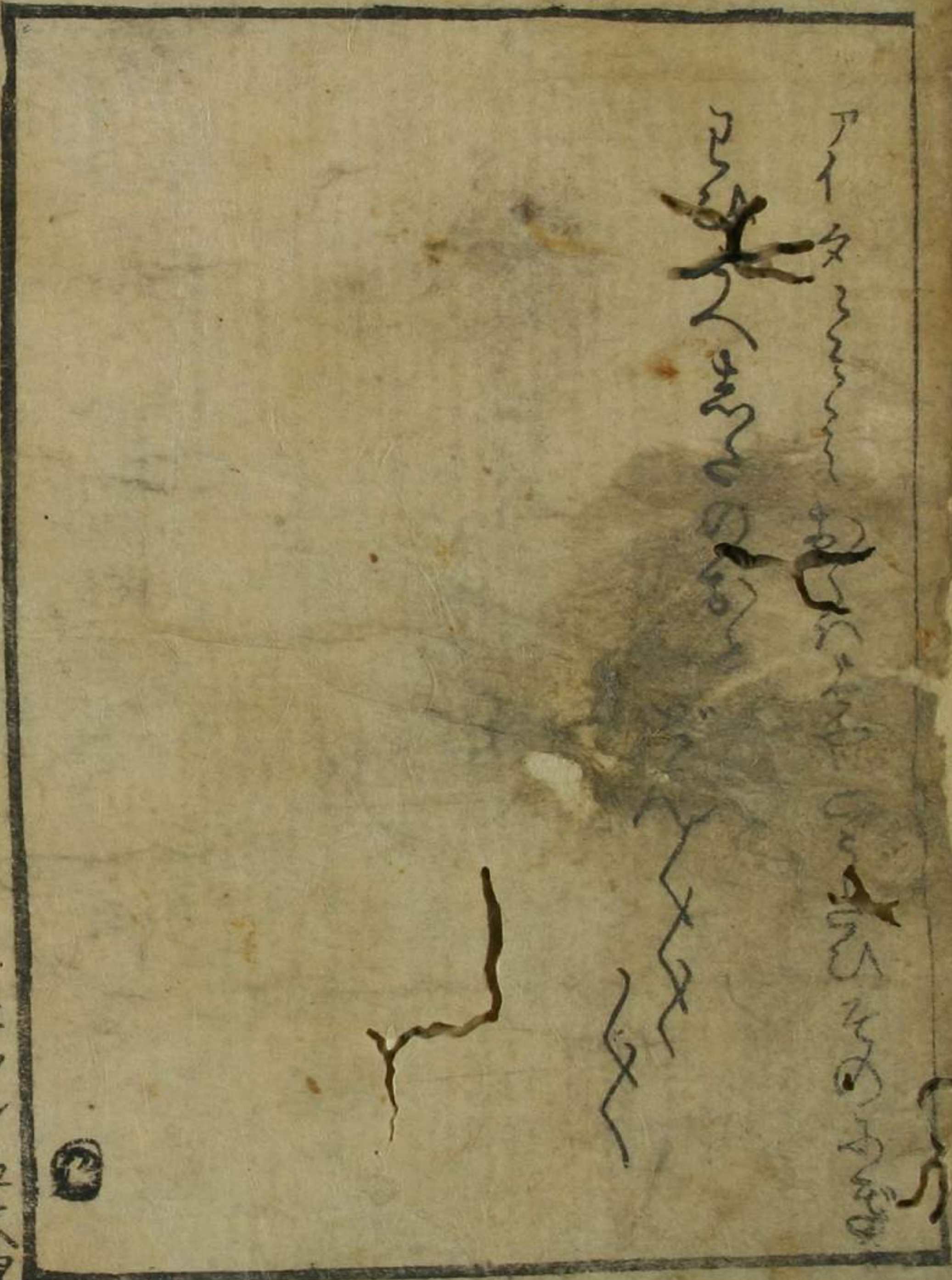
Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written within a rectangular border. Several characters are enclosed in small boxes, possibly indicating specific terms or measurements. The script is dense and fills most of the page.

三十一

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. It is enclosed in a rectangular border. The text is dense and appears to be a continuation of the record on the opposite page. Several characters are enclosed in small boxes.

一

51



三ノ五ノ六



九

i i

Handwritten mark or symbol on the left page.

Handwritten mark or symbol on the left page.

Handwritten mark or symbol on the left page.

Handwritten mark or symbol on the left page.

